

大西君、

訃報を聞いた時は、本当に驚きました。普段の快活さに満ちた様子から、まさかこんなに早く亡くなられることになるなど、思いもしないことでした。

大西君が大学院に入られた年に私は学位を取って、1年弱の期間、基研に学振の研究者として滞在していました。その間とその後しばらく私はクラスターゼミに参加していて、また堀内さんとの共同研究を進めていたこともあり、大西君とは接する機会も多く、その頃の大西君のことが強く記憶に残っています。

当時私は新潟大に職を得て、独り立ちしないといけないと思いつつ、どういった方向に研究を進めるべきか決めかねていた時期でした。1990年頃だったと思うのですが、私は三者若手夏の学校の講師に選んでもらったのですが、まだ私自身の研究方向が定まらない中で大西君に、どんな講義にすれば良いか迷っている、といったことを愚痴っぽく言ったことがありました。大西君は即座に、「そんなふうにするのなら引き受けなければいいじゃないですか」と真っ直ぐに言葉を返してくれました。私はその言葉に反応して、ずいぶん時間をかけて夏の学校のための分厚い予稿集をまとめあげたことが記憶に残っています。それは、私自身がそれまで関わってきた研究分野を振り返る良い機会になりました。

堀内さんのグループで大西君が中心となり、丸山君、小野君と参入して発展した原子核のシミュレーションによる研究を、私は横から見ていて強い刺激を受けていました。そして、結局私自身は少し離れたナノ科学の分野で、時間依存平均場理論のシミュレーションの研究を始めました。それを今まで続けていて、私自身のライフワークとなりました。

こうして振り返ると、5年後輩となる大西君からは多くの刺激を受けてきたことが、改めて思い返されます。

大西君、ありがとうございました。安らかにお眠りください。

矢花一浩（筑波大学）